

視察調査・研修会等報告書

令和 年 月 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田洋一 様

議員氏名(橋本守行)



研修・視察年月日	令和4年7月13日
研修会場・視察先	岩手県 柴波町 オガールプラザ
研修名・視察目的	岩手県柴波町オガールプロジェクトについて
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	柴波町 オガール柴波株式会社 八重島雄光 様
参加議員(同行者)	小林英恵 安藤良子 大出ハマ 嶋田積男 渡邊一男 細野大樹
調査概要	<p>活気あふれ、安全安心のまちをつくる方策の調査</p> <p>岩手県のほぼ中央に位置する柴波町は 239Km²で、自然豊かなまちで、JR東北線が通過しているが、駅が無かったので平成元年に新駅設置同盟を設置し、民間企業や町民から寄付金を募って、平成10年に町民待望の柴波中央駅ができた。</p> <p>柴波中央駅に隣接する西側には、町が所有している10.7ha の平地林が存在していた。その駅に隣接する町の平地林を開発して駅前都市整備事業であるオガールプロジェクトを始めた。</p> <p>オガールプロジェクトのオガールはフランス語で「駅」という意味と、この地方の方言で「成長」を意味していて、駅を出発点として柴波地域が持続的に成長し続けると言う意味が有る。</p> <p>プロジェクトの基本は都市と農村の新しい結びつきを創造し、人が「暮らす、働く、学ぶ、集う、憩う、楽しむ」などを目標に、新しく豊かで魅力的で持続的に発展する街を目指して開発した。</p> <p>その代表が、岩手県は山林が多いので、建設した建造物は県産の木材を使い、すべての建物が木造で有り、それを建築する全ての請負業者は町内に居住している業者で建設していることであった。</p> <p>これは、町が循環型の街づくりを具現化している事と、たくさんの労力が創出されるので、若い住民が移住してきて活気あふれる街になる。</p>

視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し
どのように参考になるか、
所感等

この事業は、地元の思いを十分に再現するため、都市整備事業をするのに大手の事業者からの入札が無く、すべて地元の零細中小企業の建設業者のみで整備したことと、県産の木材をふんだんに使用した建設は、林業の援助につなげた方策は素晴らしい。

この事業は町の居住者の雇用拡大にもつながったし、その雇用により移住者も増えたことは素晴らしい事業であった。

同一とは言えないが、小山市内にも新駅を作りたいところがある

今、栗宮地域では、栗宮新都心構想があり、栗宮新駅の設立が望まれてから40年は経過している。

最大の問題が、1日の乗降客数で有り、その地域に居住者が少ないので、今後、どのようにしたら人口が増加し、乗降客を増加させ、新駅ができるかが課題だ。

そのためには、しっかりとした整備計画をして、人が集まる大きな公共施設の誘致等をしないとならない

視察調査・研修会等報告書

令和 年 月 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 福田洋一 様

議員氏名(橋本守行)



研修・視察年月日	令和4年7月14日
研修会場・視察先	岩手県 滝沢市役所
研修名・視察目的	岩手県滝沢市の農業政策について
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	滝沢市 農林課 課長 松本 理 様
参加議員(同行者)	小林英恵 安藤良子 大出ハマ 嶋田積男 渡邊一男 細野大樹
調査概要	<p>滝沢市は、182.5Km²で、小山市より少し大きく、人口が55300人と人口密度では余裕があり、農業施策は下記のように努力していました。</p> <p>滝沢市の経営耕地規模面積で圧倒的に多いのが、0.5から1haを耕作している農家であり、この農業経営経費では、農作業の労働費や農機具整備費の負担で、農産物生産経費の大半を占めてしまい、農家利益が残らず、農家収入のみでは生活できない状態である。</p> <p>更に、機械が壊れても経営が赤字のため修理や更新ができないうえ、後継者もいないので、これ以上営農を続けられないと言う問題が発生してしまうと、農地が荒れてしまうので、市としては農地と農業を守る方策として、集落営農組織などを組織して、そこに集中投資して、省力的、効率的、儲かる農業に変える事が必要と考え、国で実施しているデジタル田園都市国家構想推進交付金事業を取り入れた。</p> <p>方策としては、地域農業の担い手となる営農法人を地域別に設立して、ICT搭載の農機具であるトラクター、田植機、コンバイン、乾燥機等を導入し、ラジコン草刈り機、ドローン等で、省力できる農機具を導入してスマート農業を実施して中耕 田植 収穫 防除の農作業受託管理システムを作りシステムの中で作業を推進するとともに、農家をやめたい人と、農業をしたい人のマッチングをして、儲かる農業と耕作放棄地の防</p>

視察調査・研修会等報告書

	<p>止に努めている。</p>
<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>小山市では、農業後継者不足に伴い農業経営者の高齢化と、農業で生計が立たない現状になっているのは滝川市と同じである。又、第一次産業の食を生産する農業は大切であるが、若者の農業離れは進む一方であるとともに、耕作放棄地の増加を防止しなければならない。</p> <p>まず、農業経営が儲かれば、生活できる安定した収入があれば、また、3K でなければ、農業を選択してくれる農業後継者も生まれ、耕作放棄地も減少すると思うので滝沢市の政策を参考にして、農業従事者の増加の方策を考えたい。</p>

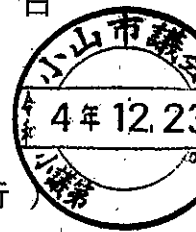
視察調査・研修会等報告書

令和 年 月 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田洋一 様

議員氏名(橋本守行)



研修・視察年月日	令和4年7月15日
研修会場・視察先	岩手県 盛岡市
研修名・視察目的	盛岡駅西口開発について
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	岩手県 盛岡市 市街地整備課 課長補佐 瀧向昭博 氏 市街地整備課 係長 工藤 章 氏
参加議員(同行者)	小林英恵 安藤良子 大出ハマ 嶋田積男 渡邊一男 細野大樹
調査概要	<p>岩手県のほぼ中央に位置し県庁所在地で、人口30万人の中核都市で典型的な消費・交流都市で、東北縦貫高速道や国道4号 46号 106号 396号 455号の主要道路や、鉄道では、東北・秋田新幹線 東北本線 田沢湖線 花輪線 山田線 銀河鉄道等の主要鉄道が有り交通網の拠点である。</p> <p>その拠点の盛岡駅西側に国鉄盛岡工場が廃止になった14.3haの跡地が有り、そこを中心に利用して再開発をしようと言う機運が昭和53年に持ち上がり、昭和61年に国鉄盛岡工場跡地利用対策協議会を発足させた。</p> <p>開発にあたり基本コンセプトを「あそびごころ、ふれあいのまち」を目指して、土地区画整理事業(事業費35.6ha・303億円)と、まちづくり総合支援事業・まちづくり交付金事業(事業費81億円)及び、密集住宅市街地整備促進事業(事業費23.5億円)の、3つの事業を組み合わせ、盛岡駅西口再開発事業を完成させた大規模再開発事業であった。</p> <p>その再開発の中心的施設である、いわて県民情報センター・アイーナは、1階から3階が知の空間で図書館が入り市民が利用しやすいように整備されている。4階から5階は「楽」の空間で情報、展示を主体としたゾーン施設で構成し6階から8階は県民活動交流センターや、多機能型ホールを備えて市民活動の拠点を中心に配置されていて、年間稼働率</p>

視察調査・研修会等報告書

	<p>が高く、空気が無い状況という説明を受けた。</p>
<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等</p>	<p>以前に視察した札幌市の再開発も、今回の盛岡の再開発もJR貨物やJR工場の跡地で、すべて駅の近くで広大な敷地があり、そこを開発するにあたり国の再開発補助事業を組み込んで開発しているのは共通である。</p> <p>小山でも、小山駅東口に隣接する所に、JR東日本が所有している、広大な未利用地が有るので、JR東日本と協議して小山市の発展に協力して頂けるように、小山市から積極的に働きかけをして、小山の中心市街地としての、シンボルとなる施設ができ、未来に向け暮らし続けられる持続可能な都市小山の構築に向け、JR東日本と積極的に開発の合意形成をして行く必要がある。</p>

令和4年7月14日小山市議会市政会行政視察資料

滝沢市における 農業の現状と課題について

岩手県滝沢市経済産業部農林課

視察調査・研修会等報告書

令和 年 月 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田洋一 様

議員氏名(橋本守行)



研修・視察年月日	令和4年10月13・14日
研修会場・視察先	長崎県長崎市出島 出島メッセ長崎
研修名・視察目的	全国都市問題会議
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	小林英恵 安藤良子 細野大樹
調査概要	<p>基調講演</p> <p>民間主導の地域創生の重要性 (株)ジャパンネットホールディングス 代表取締役社長兼 CEO 高田旭人 氏</p> <p>日本の人口は減少に転じているが、依然として一局集中で、それぞれの地域に一定密度の人口が維持されなければ地方は地域に根付いた様々な文化が維持できなくなる。反面、現在テレビやネットでは、地方にとって追い風となるような、移住をテーマとした番組が多く放送されているのが追い風となれば。</p> <p>また、若い世代ほど地方に関心を持っている人も多く、今後、地方への移住が若者のムーブメントになることを期待したい。</p> <p>現在、ジャパンネットは「Vファーレン長崎」の運営をしており、さらに2020年には「長崎ヴェルカ」を立ち上げ運営するとともに、長崎駅前にスタジアム・アリーナや商業施設、ホテル等で構成する、長崎スタジアムシティプロジェクトを進め、2024年の完成を目指している。</p> <p>これは地域が持っている素晴らしい魅力を、地域の人に知っていただくためのスタジアムで、決して観光客に向けたものでなく、地元の人が公園のように日々散歩等で気楽にきて、楽しんでもらうものである。</p>

視察調査・研修会等報告書

最終的には、長崎県内の人口が増加し、出生率も上がり、地域経済も向上し、そこに住む人、自身の幸福度の向上につなげたい。

主報告

長崎市の魅力あるまちづくり

長崎市長 田上富久 氏

人口減少や少子高齢化の中、コロナウイルスの流行により行動の制限、経済の低迷と様々な対応が求められる中、ワーケーションやテレワークなど働き方が変わり、住み方も変わりつつある。

特に、暮らしやすさや歴史・文化に注目し新たな価値を求めて、大都市から地方へと人の流れが生まれつつあるので、自分たちが住んでいる町の価値を見直し、価値に気づき、価値を磨き、価値を生み出して、人を惹きつける魅力を作るには、交流が欠かせない。

我々は、日々交流する中で価値を見つめ直し、持続可能な地域社会を作っていくことと、長崎に何度も、訪れたくなる街づくりにより、交流人口を増やしている。

市政の課題等に対し
どのように参考になるか
所感等

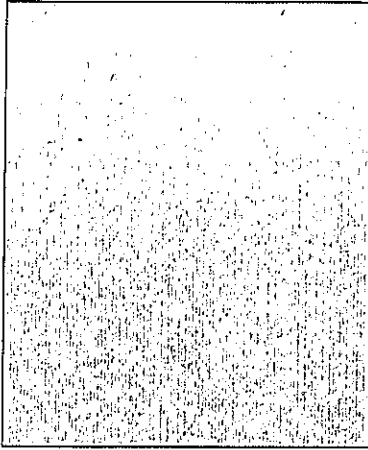
何といても街づくりの基本は、住み続けたいような、選ばれるまちづくりである。

地方には地方の特色があり、その特色をPRしてまちの魅力を交流によって体験し、価値を見直し、価値に気づき、価値を磨くことで、その地方の良さと、地域の魅力がわかるのである。

小山には小さな自慢がいっぱいあります。今現在ありすぎて、どれが自慢なのか、何が特色なのか判らないが、その自慢が磨かれ、見直されて小山の大きな柱となる自慢が新たに生まれるのだろう、こちらから押し付けるのではなく、時間をかけ、交流によって選ばれるものと思う。

小山も、他市に負けない選ばれる自慢を求めて、交流人口を増加させ

視察調査・研修会等報告書



て、交流人口の中から住みたくなるような魅力ある街を構築し、小山の良さから、移住したいと発展し、人口減少に歯止めをして持続可能な都市になるようにつなげたい。

視察調査・研修会等報告書

令和 年 月 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田洋一 様

議員氏名(橋本守行)



研修・視察年月日	令和4年10月19.20日
研修会場・視察先	長野県 長野市 ホクト文化ホール
研修名・視察目的	全国市議会議長会 研究フォーラム (デジタルが開く地方議会の未来)
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	小林英恵 安藤良子 細野大樹
調査概要	<p>基調講演 コロナ後の地域経済 (株)経営共創基盤グループ会長 代表取締役社長 富山和彦 氏</p> <p>日本の経済は30年間進歩せず、経済成長は止まっていたところに、破壊的イノベーションの波がコロナでさらに拡大し加速している所に、デジタル革命とAIの人工知能を搭載した危機が拡散されている。</p> <p>特に、交通機関では自動運転にまで進歩したのは、デジタルトランスフォーメーションDXや、デジタル大容量の時代に入り、小さいサイズのまま大きな仕事ができている、そこに新たなAIの人工知能と言う知恵が追加できる時代になってきたから取り入れている。</p>

視察調査・研修会等報告書

パネルディスカッション

地方議員のデジタル化の現状・課題と将来性の可能性をテーマとして
人羅 格 氏 毎日新聞社論説員

市議会のデジタル化の取り組み状況について、人羅氏は次のように報告した。

委員会等では、17%の自治体がオンライン開催している。又、タブレット端末の普及状況は52%の自治体が導入している。さらに、インターネット検索は86%自治体が導入し、会議録の作成では音声認識システムの導入は23%しか進んでいないので、今後、ICT化の導入が必要。

岩崎 尚子 氏 早稲田大学電子政府・自治体研究所教授

地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性と題して、2040年ごろの日本社会の姿は、65歳以上の高齢化率は35%超になり、独居高齢者世帯も急増するとともに、高齢化により認知症患者の激増で医療費が増大する反面、生産年齢人口は6%減少し15歳未満の人口が4分の3になる。

また、インフラ・公共施設の老朽化し赤字交通機関は廃止されるとともに、地方を中心に企業数が減少するための対策が必要、その1つとして、新デジタル人材の育成で、研修制度によりとり残さない共助社会を作る

牧原 出 氏 東京大学先端科学技術研究センター教授

地方議員のデジタル化、審議のオンライン化とデジタル化への対応は国の政策となっているので、①スマート自治体になる ②コロナ対応でリモートワークの推進であるが、完全オンラインの意向を求める意見は少ないが、ハイブリットを求める声は強い。

市長側と議会側など全体がデジタル化にするには、アプリの開発が必要。となる

湯浅 愨道 氏 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授

デジタル化の意義には災害時など、危機に強い議会が構築できるし、コロナ化の危機の中でも、オンラインにより議会報告会等のコミュニケーションをオンラインで取ることが出来れば、議会や議員の活動に理解が持てる。

視察調査・研修会等報告書

	<p>寺沢 さゆり 氏 長野市議会議長</p> <p>長野市議会では、令和4年度市民と議会の意見交換会をオンラインで実施を開催したが、参加者は50歳以下であった。</p> <p>又、委員会のオンライン開催も導入している。</p> <p>新庁舎により本会議場で実施する採決は原則システムを利用して、常任委員会はインターネット中継をしているとともに、議会にタブレットを導入していて、ペーパーレス化に努めている</p>
<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>小山市議会でも、すでに4年前からタブレットは配布されている、しかし完全ペーパーレス化は難しいが、ハイブリットで進めることは可能だ。</p> <p>又、本会議場での採決は原則システムで、議会のインターネット中継も実施しているが、常任委員会のインターネット中継は実施していないが、できるようにする検討が必要</p> <p>災害時などには、様々な会議が、オンラインによりリモート会議ができるようにしなければならないと思う。</p> <p>又、議会報告会や議会広報等もオンラインで配信することが出来れば、ペーパーレス化となるが、一気に実施するのではなく、ハイブリットで政策を進め、最終的に完全ペーパーレス化が必要であることを学んだ。</p>